宗祇聞書寫

543
ソ
2

九州大學圖書

九州大學圖書館
昭 24. 7. 13
184030

543
ソ
2

宗祇一巻之聞書万葉集之内記偽や
秘歌之定ル上雖秘事やめすして秘之
一百韻もの句結案しるし能〻合縁あるを
引合てしめすもうつらくかれしとあれハ
さらしもし
一千句の句結むとらぬ事しちのひゆ始ル結さん
付合故捻もしてめてしのうすとも一とせしさ
ハやうき可に合かし案しゆしくえむく人を
こされとて一向ニ心得えとめし清尋れし

一 両の詞之事 用ゐる所は 古事記 源氏物語なと
にも見えたる事よろしくゆめゆめかなしくこそは
やはらかにしてやさしくすへし
又其句はよくよく見えたるものにてめでたくもありとも是なり
神祇下両句に渡る雨に生ぬる事也
恋 述懐 神祇 天象 をいふ無常 さびしき
哀しき 名所 田家の外なる旅 賤 若竹 鶴
うら悲しき 哀傷 旅々 云ふものの煙 さえ来る 男
おちつち 鬼

一 賦物は字之事 二句下嫌 其之ことく 仕るへし
春之季詞之事
イ 残雪 泳 梅柳 鶯 トクル氷 すへカエル ニアラス
正月は 初寝る 若菜 あら鳥 梅の花 年越して
晴れゆき 子日の松 門松 いつきてせし 春
初春 名残雪 あら玉 の朝みえたる 霞 風
数へつつ むつましく 行
二 衣更着 初桜 二月事 雪消 夜さし きさらぎ
春日祭 佛の別 ワカレ 初桜 霞の舟 天象 若草
稲荷祭 初午 鳥ぐも 那智山の花見 長閑

野山焼　おぼろ月　紙鳶（イカノボリ）人を

三　弥生　霞　青柳　遠桜　若鮎　雲雀　楓の

茶　鳥の巣　帰る雁　暮かし　躑躅　款冬

蛙　小蝶　苗代水　小鮎　又蛙ハ越る春の雪ぬ事ぬ

若菜こも　松のみどりの葉　又越る春の雪ぬ事ぬ

さわらび　桜狩の茶　山風みどり葉　春の茶　初暮

ひめうり　鳴鳥　若和布　霞かけ月の春

きり柳　花女

春三月　柳桜の花ちりかかる風の雑子をわれく

かも祭　夜風季の詞

四　卯月の草　春桜　神祭　時鳥　蔵々菜末　春蝉

明る　早苗　卯の花　新樹　春かへる　鷹の羽ぬけ

まつまつり　春祭の花　桐の花の茶　若菜　衣更

杜若　牡丹　春梅

五　葵　ちまき　梅の雨　五月雨　かきつばた扇　田哥

作毛月　梅の若葉　麦秋　水鶏　植田　標

五月雨　わらひ八　茅の行　収　とやこもる雛　行

おちる　雷かむ鳴　はたゝかみ 五月音　まつりはてゝ
夕顔　清まれ残る月　くらかし　百合草
男子　常夏　吹ご尽も長政
六涼しき　涼つき白　稲舟　雨こもれ　柱子
こけしの麻　蛍　みな涼み　みる 清水むし
水無月　蓮　夕立 晩雨　秋を　泉　ほらぬ
風かほる 又 風かほる　桜井　唐子　不行にも
ねひり　杉をたつ 又云 すゞしみ菓子 麻の形の事
吉田ふつき八婚 吉田とも　あ涼ゆし　富士の

初雪　かもあかん桜　あせ　桜麻　青み祭
雲の峯　かたり 林 五月雨　氷室 桜 六月桜　林檀
夏三月卯花通り橋なりしこそ形く河鳥の雛精の
鳥
秋の季の詞の事
七文月　七夕　星迎　天川　かさ花の橋　天
河　こゝこの花 七月　一葉　書もえ舟 セリ　牽牛花
やまのほり 七月の事　玉祭　柳ちる　えさ花る
初風　露ちる　梶の葉　ちるみる風なり 天川 セリの 舟の渡

桜紅葉　すゝきの穂　初嵐　麻かりそめく
いさ田かる（イカル）　車アハセ
八朔月　萩　桂　釣月　鶉　霊星　草花
色鳥　色変　鹿の声　野分（暴風）　そゝろ寒し
きさゝかし　田かりの月　桜のもみち（桜紅葉）　蔦の
まれ　草木風の月　小かわ祭（イ小野祭）　宵　八幡祭十五日
碪　精霊　松虫　鈴虫　くつわ虫　秋の色
男とる（イも）　初鳥　初紅葉　雲　小鷹　月
萩　霧　桂　秋の川　いなおほせ[illegible]

日晩　千草　こゝさ　かるかや　色さ木
くゝそ　蔦　芭蕉　思草　かるかや　作くれ
稲妻　桐　や　鳩吹　八月の事
九月　菊月（九月）　草枕　うら枯　長夜　草花　まねくる
秋さむし　菜　蘭　鴫　鶉　[illegible]　蓼
鴫鳴　草風をせかるゝ（イミ）　蕎麦の花　すゝる　鴫の草
燈　もらひ花　枯藤（かレノハ虫秋し）　むし　露霜
立田姫　なつかし　萱　そゝろ寒　よろこそ　岩梨（イ）
七夕の梶　又筆　宇治の茶園　源氏ニ有　初塩　八月十五日　宇治の茶合

菊ほし　菊作（大たし）　入（イリ）山祭　おきみうる
拾月さくら花すゝき渡り鳥舎に鶉なくこと
冬の季ならぬ詞
十月　初亥　残る菊　木枯（イ本ノ菊ノカレ）　神無月　落葉
紅葉散　さむし　霧こほる　ゑもの志くま
秋ハ時雨　枯野の行
十一　神かくら　星まつり　枇杷の花　初雪　霰
様ゆきふる　庭火たく　かくらみたまふ　み
鳥こほる　炭　木の葉散　水鳥　木の
紙子衣　落葉衣　おきれもる　蒲団の鳥
十二　初春（イ早）　雪　寒さし　みそさゝい　年忘（イ）
極月　佛名　鉢叩咄する　寒気讃　残年
河豚雪　氷　からさけ　寒梅　節季候　紙衣
冬三月残菊いまだ冬毎田鶴浮鳥鷹
鳥
雑物之事
一様　よもぎ　むくろ　ゆきちる　いすゝ草
かへり花　山眠　梅　鳴鳥浮巣　やよりう

こりすと家　こゝろ　星　月　日　鳥

一梨　夜明の後　清水

雑物称用之事

弓称　りとすゑ日　清水称　なかし日　流し日

ひく用　きせん日　ゑり日　酒方の祭雑

居家の称用之事

形称　床日　門日　扉り　垣　戸　障子　竈

三
住家　村　里　宿　あまの海　宅　関戸

草戸　草庵　庵　蓬屋　笘屋ぐ称　庵用

外面日　小屋日　屋称用之称

山野称用之事

嶺称　高根日　谷日　峙日　岩日　尾上日　坂日

麓日　嶋日　露の岩日　鷲の峯日　将ね嶺日

洗用　林日　松木日　炭竈日　杣　ナトスル山　洞

水辺称用之事

奥称　蓬嶋日　千沢日　海日　河日　入江日　洲渚日

磯日　湊日　浜日　潟日　鳩日　汀日　流を海手之

堤日　池日　水海日名なし称　水用ヌルヒノキ　堰日　流日　鴨日

塩竈は 浦まは 平流水は 掛樋は さし塩屋は
渡津瀬は

海川の水辺物之事

橋 りは浪 川 貝 渡り いさり火 みるめ
海士 あま舟 浦島 ちどり 東 しほ干
宇治の川瀬 水瀬 鉄 室の戸 仏千ば一夢
おとろひ 法の水 法の舟 はなされ

述懐の詞

身のすゑ 身を我纔て 何事て 浅猿や 草枕
衣もなれ 草の衣 草枕 草の袖 草むら枝
浮世 世の中 憂世 後の世 生れ世 かりの
世 夢の世 来世 世をいとふ 世をいでて 世の外
世語

懐の詞

懐かしく 旅枕 懐枕 古今 秋とて 後風に
川袖 舟 うつりみる ささ舟で やり越て
露ならで 夜遠き 宿かれ 都我語 志賀より
山越 夜ハ懐かし 懐の夕 懐かしき衣 やとまりの夜

下紐　草枕

恋の詞之事

恨　移ろふ　情　はこそまし　つらし　うき別
別　名のみなりけり　名残　契　媒　思緒
いりせ　いひなし　恋しさ　恋しこそまし　中
聞ゆる　移香　面影　独寝　枕香　手枕
帰るさ　袖もぬるゝ　まちわびし　浅み
偽　恨み云　兼言　中にある　人目
ここち

連歌にてつかはぬ詞之事

夕日暮　時雨に時の字　玉章にとくれ　詞ことに
の紫　水鳥　鴦　かもめ　蛙　あや菖草　雨こゑ
杜若　菖　浮草　蛸の三草　流ス浮ツラ　住吉の神　宇治ノ川ニテ山形ニアラス

非水鳥物之事

臥屋　鹿もなきみ　茆さゝ波　硯の水　涙川
月かけ氷　袖の氷　足踏　うき橋　駒わたり

植物ニ不嫌物之事

軒もるあやめ　木の葉山　篠枕　橘庭　蓬生宿

庵の名　夕顔の宿　草庵　苫庵　露林　松陰

非植物之事

松の門　柴折門　吉野笠　藤の窓　萬風庵

〆木　流木　苔の袖　書丸木　笠蔵　栄風庵

絵小書草木　草枕　柿木さん　若草山春日ニ有

非居物之事

塩屋　家居守柴し　市　雲の巣　花うき

名所にも居所も非居

都　みやこ　百敷　雲の上　九重　大内

神祇之詞

宮社　神垣　斎庭　庭火　玉帚ゆき　ぬさの

鳥居　みつ垣　白幣　みしめ縄　祈る

御池　杉のやしろ　鳥居　いく代　鶏の雛　玉垣

手向　草の白幣　ゆふしで　御戸ひらき

釈教之詞

寺　法衣　樒つむ　閼伽水　二瓶　くみかね水

心の池　菩提之道　あやこ子　涙ニ袖かわく露

生死ニ命　なかくニ間　あはれかるニ老　久るニ別

うれしさ　つらさ　淋しさニ　哀しさ　小塩ニ小雲
大井川ニ　舟せうぶ　命ニ玉の緒
下ヒモハイシヤウニ　非衣裳物
帯　笠　冠　衣ニ　依保非衣
ころもの物之事
花の露　花の浪　花風雲　春風かね雨　木綿の
霞の香の霞　月すれ雪　月すれ霜　木綿の衣
旅衣　さくら　桜戸　此ハ南方ニ下嫁
又云　浪の花　物の遣ニ　非植物　花の雪　植物ニ　非降物　袖すれ露　非降物ニ

浅雨　非降物ニ
庭ニ二有物
山里　萩　朝顔　山ヶ川　塩干　桶　炭竈
長栄　海士　異気有之　干潟　駒　泉　嫁さ　ころひす
百千鳥　夕ノ暮　外面　簾　まつる　簾まてる　篭
郭公　灯　河面　の鶏　小鳥　宮小舟　萩
ますま　椋葉　夕ま　思屋　機　思川　帰雁
秋の雁　日暁　夜の燈　入会　数え　鶏　豆雀
涼しさ　鳥　鷹　勝月　錦手　かさそひ　鳥飼る

秋 蛉之草 杜若 桧原 萩草 有明 涼し
橋 女郎花 呼子鳥 蝶 古松 螢 蚕 虫
夕立 夕暮 昨日 今日 垣根 苔 稲葉 有明
朔日 こんにし 手水 蚊遣火 森閣

庭二ノ物

夕鳥 [illegible] 入日 [illegible] 情
桜 [illegible] 宿 巣 霜 [illegible] 潮 夕
垣 [illegible] 雨彩 時雨 霧 [illegible] 鳴 春風
実 [illegible] 砌 [illegible] 秋風 嶺 眼
庵 [illegible] 床 野辺 海 苔 湊 瀬
庭 [illegible] 鳴 [illegible] 春 月
夏月 冬月 秋の月 日 暁 代 春風
池 [illegible] 有明 霞 [illegible] 庭 猿 [illegible] 令
男 [illegible] 残日 神祇 床 [illegible] 夢

庭三の物

神 花 [illegible] 柳 [illegible] 露
梨 [illegible] 岸 [illegible] 垣 文 [illegible] 狩 車
実 [illegible] 鐘

雑四の物

雪（四季ニ嫌ニ可付）霞（四季ニ）氷（イ）なとく 霜（打越嫌）鳥（嫌て）何面

梅なとく 世 日 橋 日 雉ニ大物

雉ニ 八物

比（韻ニ只只只八字云）好 つれ まし 前ノ面ニ一句

二句去之物 恋ニ二句嫌物

居所ニ 栖 庵よりニ 村 田家ニ ともし 隠家 実

去ルニ 其座 行田ニ 伏見

檜物ニ 二句嫌物

野山のつゝし 冬村ニ 下前 山越え 垣ネ 打越

蘭ニ（是ハ諸植物ニ二句サルヘシ）ういと云字ニ 比世のつきれ字 名所の附ニ

都ネれ附 山路ニ 浮嶋の原 木の字ニ 木根 浮ぬニ

月 草木ニ 行 ちる 形さニ 無と云字 てきれ字三句

小の字三句 まる字 哉 あわし（嫌字三句）雲ニ

曇 尻ニ 勝 乗まし 世ニ 思ひき 見れ字ニか

唐りみる 竜ニ のまし 右ニ 旅 月ニ 日次きれ日

日ニ 月次の月 梢ニ 末 碁ニ 衣裳の袖 夢ニ 群ニ

響 遠ニ 遥 袖きれめつゝしニ 風 なくニ 間 別ニ 帰

夜ゝ降物ニ沈まヽ一とし是 虫の声ニ人をかなしく
野ニ原 煙ニ 見ゝる 水辺ニ 常地ニ水辺

三句去物

月ニ日星 降物ニ聳物ニ 聳ひさ物 木ニ草
虫ニ鳥 鳥ニ獣 名所ニ 名所 山類ニ 葉

五句去物

同字 日ト日 月ト月 夜ト夜 木ト木 草ト
草 獣ト獣 鳥ト鳥 虫トむし 恋ト恋
恨とうらみ 猿ト猿 舟ト舟 旅ト旅 夕トゆふ

述懐ト述懐 天象ト天象 神祇ト神祇 衣裳ト衣裳
山類ト山類 舟帯 星初雁鳴鳥云 風 花 雲 煙 野 山 道
等

七句去物

衣裳や紛田の夕顔 蔦 月 雲 桃 七句さる也し

輪廻之事

蓮と云句にこゝろことを付て 又 前句ニ不可有 舟
なとにも煙と云句ア 星と付て 其まゝ いや
あるましく

遠輪廻之事

去りと云句ハ風景ニも付て又一巡の内ニて云ん嫌

付るなト

本歌取やう之事

三句まて去るまし事ハ可嫌候但通ふ方ニハ不苦候

水辺ニ付てなき物

竹屋 霜なれ潮 小田氷 布曝 星の舟 七夕の舟

紫遠 駒なれ浪 佐野の渡 宇治の渡 硯の水 神楽舟

海川 月なれ氷 袖の氷 足摺 樋 室 備州 八嶋 讃岐

難波 津国 住吉 摂津国 志賀 江州

関の堰根

山ニ有実ハ山類ニ縋 浦ニある関ハ水辺ニ嫌ふ

夜分ニそなれぬ事

月なれ月 三日月ハ花の暁 鵜の床 夢なれ世

常灯 ともし火 蚊やり火 とく火

夜分之事

手鞠 籠 螢火 庭 枕 園 灯 明方 暁

句数之事

春秋恋ハ五句迄仕候へ一句二句まぬかハ指合也但恋ハ

一句二句にても捨候夏冬神祇釈教述懐居所懐旧

山類水辺三句をくへき一句二句にても苦

捨候夜分なとハ三句をハさるへし

二句をくへき物

植物　人倫　生類　天象　降聳なとの物

人倫之事

人と人ハ五句をへたてゝ能　人　我身　友　父母　親

子　翁　主　宮守　独　海士　此等人倫として三句可嫌

人倫ならぬ物

月なとの友　月の主　花の友　花の主　山姫　竜田姫

親子

躰用之事

躰ゝ用ゝ用ゝ躰ゝ

發句切字之事

かなやけり也ーとこそなむらんハ

春部

一　梅ハ　若　桜　霞　帰鴈　朧月　雉子　山里　花ハ

残る雪 鶯 に 春さむき 柳 菫 久方 唐土

青 難波 渚 初春 大坂 春風 袖寒く

一柳二八 糸 みとり 道 野へ 梅 まさりし よもき

鶯の羽風 岸 浪の 川そひ 久しき 門

一桜二六 葉 梅 青柳 散 残し 山のさき 雲霞

吉野 八重 さかり 布引の滝 立田山 糸 家

冨士の根 嵐山 三芳野の尾上 遠山 床 あまり

夜 春風 雪とし 山

一若菜二八 雪ふる 野へ 吉野 春日野 小野 生田

衣手 ひさしく 年ふり世 袖さむし うつる 君か為

一はる雨二六 一夜 野へ ながしき 橋 ふるき 思ふ

袖 さむし 春の野

一山吹二六 錦 くれなゐ 吉河 春 岸 玉河 井ての里

芳野川 くれの春

一藤二六 春くるゝ 春日野 紫 田子浦 門 浪 あやめ

誰とまりに付

一蝶二八 夜山 村雨 小川 木の思 春の夢 寺

衣 唐衣

一蛍 二六 秋近し 沢辺 おもひ 袖につゝむ こゝろ
もゆる あふさきに 小川 邊 秋風 雲林上人
夜之部
一卯花 二六 月 河邊 雪まがふ 庭 白妙 さらす
一橋 二六 新緑 人通し むし 河邊 小鷺 条之
一河鳥 二六 思ひ寝 村雨 山路 五月雨 菖蒲 汀
まつ山 村雨 一声 ほとゝぎす 山
一更衣 二六 夏衣 うすき 夜こゝろ 春衣更衣小屋
たちよる 扇

一杜若 二六 紫 沢 水あふれ
一水鶏 二六 たゝく 槙の戸 笘屋
一梅子 二六 山 みちのさとに 花の情 露結ぶ 大和
昼 河しもの泉
一菖蒲 二六 村雨 涼 蓮 水遣川 枕 池 ぬく
一夕顔 二六 ほのゝ 宿 扇 青 ゆふまくる 露の門
条之 畑中垣 野はしりまく
一鴫 二六 人あはれ 秋の夕暮 沢 荊田 あはれさ
いつも秋草

一 松虫 六八 露山陰 夜寒き虫の音 しけき 草村

一 鈴虫 六 夕影 霜夜 寝覚 恨なく

一 虫の音 六 いつまて 夜々 為虫待る 影 露たる 物

一 鹿の音 六 袖 霧 よもすから 秋風 また寝入 日陰

一 七夕 六 銀河 一夜 扇の風 かさね 露
玉章

一 薄 六 萩 時雨 入野 こほれ 紅葉
尾上 かるかや

一 碪 六 夜さむ 寺 庵 擣 長夜 浅茅 月

うつもる 秋はなし

一 紅葉 六 嵐 時雨 林 立田 こすゑ散 秋の錦
霜 嶺

一 萩 六 山下 妻乞 影深 夜々 露はらふ 庭 秋風
露の 庭

一 女郎花 六 嵯峨野 男山 名にめてゝ 元のくさ
折りめき ものかたる

一 葛 六 うらみ かへる 葛の葉 浦風 秋風 返る

同

一槿六 夕顔 志のゝめ あさかほ 雲 露おく袖

一鶉六 山田 ころもて よるく 節過 入節各嫌

一菫六 山路 秋霜 白露 籬 庭 里 こゝろ

雲井 手毎 やきられ

一蛍六 宿 むすひ文 露かゝる

一鶉六 尾花 床 深草各嫌 まつ 入日各嫌、鳴節

一鴬六 花 梅 桜 朧夜の月 春の明ほの 人

なきこゑ 宮清盛 谷の戸 山里 野人 やと来

聞しらぬ

一帰雁六 玉章 春の別 花ちる里 旅人 雲舟

春霞 田面

一雲雀六 揚る 雲井 あかつき 床 春風 夕暮

一蛙六 声 世をうむ あひやど 春雨 鶯 井手

すみ里 山ふかき

一小蝶六 ゆめ 夢 蘭 日影 うつ

冬まの朝

一落葉六 ちる 霜 衣 春風 時雨 山里 かきね

一千鳥ニハ　思ひの　磯枕　浜千鳥　いくり　夕なみ
川ノ瀬さむき
一時雨ニハ　月くもる　木の葉　定めなき　庵　雲　山路
山めくり
一雪ニハ　奥山里　積る　友なし　ふる里
一霰ニハ　松原　小篠　深山　玉ちる　こほり　まつ風
枯野　庭踏れぬ
一霜ニハ　橋　落葉　橋　枯野　夜踏れぬ　千
一氷ニハ　須吉　燻　霰かゝ　すらく　風　山の井

たかさ
一深草ニハ　おきの　宿　衣川　旅人　夢かゝ　里八
あまさ
一蘆ニハ　難波　入江　みしかき　三島江　糸
一竹ニハ　よ　節しき　ふるき糸　千代　林
一薄ニハ　宇津の山　まねき　ほに出
一篠ニハ　一夜　枕　ひとふし　庭　こもる
一鶉ニハ　千代思ふ　林　ならの井　澤　隣
一鷺ニハ　沼野　川邊　洲崎　笠　橋

一 鳶 六 市 うま道 深山 やとり 月夜 ともまち
一 都鳥 六 墨田川 いさことゝはむ ほりえ川
あはつかさ あるまやなしや
一 山鳥 六 なかし あしひき 遠山 一夜へたてゝ
おもふハ別 見るハさえて
一 村雨 六 雲 時雨 遠の里 一とほり
一 煙 六 春 塩屋 一すちの川 嵐の 里 新月ゆく
おこし火
一 赤坂 六 実 枕 高羽山 志のゝかれ 清水 越檀

らく風 都ちかれ
一 不破の関 六 板ひさし 枯野 あれまくし 人の名
一 白川 六 枯野 都いりち 萩 卯花
一 宇治 六 暁の見 山川 茶の木 橋 蛍 ひを
衣うつしさ 網代木 まつ紀 野路 鴻 部
一 伏見 六 竹 夢 稲 山里 深田 池
一 深草 六 野邊 山桜 鶉 墨染
一 鳥辺山 六 松虫 葬 寺 手向
一 大原 六 小塩山 みゆき 小松 たつし 清峯

一小倉山六　葉の時　名月夜　しくれ　鹿　[illegible]

一小塩六　神代　今日　思ひいて之

一立田山六　夕附鳥　[illegible]　白浪　唐衣　川　夜半

一[illegible]山六　海士小舟　さやけさ　山下風　桜原　梅

中宿　寺　滝

一吉野山六　桜しれ　花　[illegible]川　奥山　紅葉

[illegible]の月[illegible]　[illegible]池

一葛城六　夜[illegible]　青柳　峰　金剛　[illegible]

峯かゝる白雲

一富士六　雪　煙　すそ野　田子浦　中尺

一宮城野六　女郎花　久米　あはしま　萩

一武蔵野六　紫　もたれ　いかほ池　女郎花　すゝき

露しゆきて　露の下草　草より出る月　日

一須磨六　明石浦六　三[illegible]　ちる[illegible]の桜　塩浪　[illegible]

交古　海士　[illegible]　千鳥

一難波六　梅　ちる　入江　葦　滝ことゝふ　住よし

月

一明石六　月　見　さやしろ　朝霧

一住吉 六 遠里小野 松 岸 忘草 江 市神

一浦 六 浪 舟 濱 千鳥

一すみよしと云事 又ニ云の鳥と思事 よらし

人すむあれし 猿嶋なすとの事へからして云

事也 日本紀 呼子ノ国よりハ人すむ国なき

ハし 光人とて 不知 嘆子鳥 見ハすみよしと申すれ

其字也

一玉くしけと云事也 あけ小玉くしけとも讀る

前おほしよあつるけれ 人のこもくし 人箱

なすし思ふらく 玉くしけ 世にハ曉すれ 夫名也

あけりもとれ 曉のころ 我讀り

万 名負根あはつ 明郡ニ すみ浦ハ 明しくて 和也

此歌すみ浪ハ 夕負根の 出てき 又ハ 曉の名也

ゆくら おほつかしく まよ来

流あのおもらしの事

阿の風のなき 汎塩焼 いと明そつきのなとらしとさて

此前ハ 路浪 なとらる 人ハ 紀伊 とるへつ事

すみ よらしと云ハ ささ すつるらしと おりし事

ちわくは是ハ塩屋なる所の物いさかひなり
此元さまをたてまつりて作らせらるゝ所をいまだく
こしらへさせんし塩焼稚ハ見てつらのを
らしをらしくさしてと云事とぬしへつらと
なれなくしをくさたつるらしゆゑ不て是塩土の
ものいさかひまし検つかなれおこりして云文字し
一猿男の浦子是ハ猿なれ兵庫深山まとてかけ首
人の猿丸太夫をひらきて良人猿まろかけて
古ハことを申しらぬによりみてし猿丸をしれたかひはぬハま

一こさいなれ鹿馬と云事大国にて是ハの国と云まさ
猿の女何をいかの物なれ女男を見ていかなる
山里なれなしらひいふ事ハ多くの事よく見わ
秦の始皇をしまして鹿を馬と云ふして
群臣小書を待られしハ是をさひなれ鹿
馬とかしなれど人々なれハの事なりと云
句とく此秦の鹿馬何なる事し是も
其知るをくハ此して此しれむしたく
此読むべし

八代集并伊勢物語百首源氏其外抜書
之内撰集也

一せうとゝハ　男の事也

一ひめこの松とハ　遊女のたとへて云儀也　人なうハと
祝ひ申さる義也

一みのしろとハ　上衣の事也　御衣の事也　黄衣の事也

一あさちふとハ　浅くちたる所事也

一かんなひとハ　云ん社らく事也

一かとゝ云事　冬の河にてなれハかすかしハ冬のかすみと云霞
雨の河辺のかすみハ霞のかすと云　かすとゝ云ハ四十
より老に入四十日六十日七十日八十日

一こそうしとハ　夜々の事也

一人数ならぬ身ハとハ　のろひさる事ならぬと云事

一玉かね緒とハと云事　志ハしと云事にも河ヲ
そのくまる處也

一河もたもとハ　合する衣の事也

一ちくもたねとさとハ　ほとゝき須也

一ぬさとハ　みてぐら事にて日向まつる事也

一天地をうこかし　ちからの時今のこと後く川ゐ
なりたること也

一目にちかきとハ　今見るやうにてくる錢のやうにす事也

一ともたちを父ともとらしとも　何をかをしへてかくまて

一玉結ひせてきとハ　うきものにてたまをむすふ錢をてい西し
なかふるわれ人こひしきものハ下もおもきこと
くる事也

一あまつ明らかに清く母うらわか条の事十世男とあひたる
瑠璃のりさいかこと也

一むらとりとハ　草のゑなれる事也

一めかるとハ　めはなるゝ事也

一かきたえたとハ　ありきてたえたといふ事也

源氏

一きくあるとハ　春まちまちのしるしなく金商よ東
むかしのえにしさこそ　ゑにしある錢也

一とめのせとハ　所かはりて出てくる蜂の事也

一いさ汲むハ　生涙也

一婦りをへたりぬるとハ　ワきをりたる事也

一 源氏須ニ明石なとの御哉のうちみあやしく書文哉
うつし絵とハ云
一 ますらをとハ　名高きみゆる事也
一 玉かつら見えこゝろのほかの花さく山吹哉として結ぶ
ゐる哉つれより日あたりの見て梅哉
きしの鶯哉つれて秋のはなもゝ源氏
一 あはれ定の事　初めの御花哉定むる事也
一 おもさかの合の事　梅のえだの見る事也
一 夢のわかの歌とも云事　源氏の浅茅むかしの考也

ゆきのいとはるき
一 宇治にて花のゆかりとハうたふくるみの月も見る也
宇治のこゝろの見るへき更衣也
一 鶯とはるとの一声と聞く八雲の心にて夜也
一 雨とゝ雲とゝ絵ゝ見るハ美也
天地（アメツチ） 菜ツ糸植物也 秋ニテハイホヤ川ニ舟千千川ニヅ舟不可村ハ七八
むかし条 イホヤ川ニ舟ナトノ千ノ川ニヅ舟子ヘカラスハ小川也
一 橘と桜と絵にて夏也
一 錦衣こゝしの紀衣也
一 鶯のわか袖ちハいきの紀袖也
一 立田川にて舟不可小川なし

一 菖とハしらすハ花かつミなるへし
一 鵲なる橋とハ烏ニ翅をならへて橋とする事
一 みさ山祭七夕の事
一 たん衣 神祇也
一 あはれなるしこゑとハ琴なる事也
一 雛遊つゝみなをしハ前なる事也
一 むらさきとハ紫ある方の事也
一 六の花とハ雪なる事也 六ハかむものちるといふ事也 雪也
一 めくるとハ蔓なる事也

一 蓮なるうへとハ寺の築地事花またハ御し
一 むかしのすミなるとハちひさる事也
一 春日なる所ハ武蔵野とゝ東河も春日て有
一 御房と云句ニて陶表器たちよりたとりり出遊ちうちを振なる事を御流と云ることハなそらへし是は
いつまても御流なる人なるへし
一 きぬと云句にて春ハ山の葉すそれ 山吹 夏ハ撫子
とつなく卯の花 秋ハ槿 おち 霏ゑ康風なるへし
つきゝ冬 雪の冬こほりも何もさらぬと云句也

下付ゆふかんこえぬかわかんかよして秘

一九本なる子とハ　梅木の事

一世をかくはらふとは　世をかくする事

一さしわたす事　さん雪城とおつ嬉河なるかと沢

一御嶽寺の事　山てんくる東山龍へ嬉清見

宇礼事　浦と河ゝきよきとその邊へ嬉ゝ

一第の第うくも充れ第の房第れ第枕て有

一舟岩山　御舟山みとと云字をよむ可なる下嬉

一衣川　衣のかわ衣　衣と云字をよむ可なる下嬉

一桜木と云句くねと有ニ而又所々の名而不在付

一吉田と云句ふ我と付て又我ゆへ名所ニ付

一賤物嬉在　若人山　櫻　夜道

一んの松　んかの松　宝つるゝんの事ゝ

一いつとに御よしハと云事ゝ　絶て依也こ

一さすゝぬめゆとハ　世く振まする者の事ゝ

一たちまちれたる奉城かゝくよれたと云ゝ

一第ら免之ゝゑぬとハ　ゝ城ゝゑぬ事ゝ

一みなとふ元所へとハ　ぬ城かくす事ゝ

一ろく城やうとハ　相城やう事也
一こよろぎとハ　よろぎとこよろぎかいと云事
一なき人とハ　なきせと云事也
一夕さまハ　夕アさまでにと云事也　仏心千手(人)字世ニ出テステ、口伝　字世三信
一難波が里　なにはえ浦の辺
一いく山とハすゑや　武野とせと
一う〇花事也　花在芦合雨とぬ世ヲ色うくれ山もなし
う〇河のせ野(とハう〇州しとあるなり
一たなし小舟ちいさき舟の事也

一弱かハ東　あつまの関路の返
一あづれくハよそとや
一ことく云ハ　ことく角かの事也
一弱のされとハ　弓引ての事也
一今ハとてと云ハ　今ハ限と云事也
一いやれおもひしと云ハ　いや思ふかハと云事也
一ちらかはるとも　ちらしはてゝと云事也
一年妹とハ　としの妹りの事也
一風まかせとハ　風の言の事也　かかるとも云節

[illegible]神祇之

一山姫とハ　山の神なる事之

一さほ姫衣ハ　さやしてあるす

一ちらしくとも　ちらししと云事之

一榊葉　松か谷

一雲のはたてとハ　なるかみ神の事

一呉橋　雁の邉

一御裳濯沢とすゝハ　かの邉之

一御幸とハ　山邊之

一空の八嶋とハ　山邊の邉にあらす

一紫鳳すりの衣ハ　面白羽や（紫ノ子スリトハ紫ニテカリキヌヲソメタルモノアルモノ之　君ノメシ物之）

一躑躅　卯花ハ　夏之

一藤ハ　夏之

一椿と云字之木ふ[illegible]紀椿椿　椿の名ハ木風字なる

下[illegible]

一ほのくとハ　ほのくと云事之

一なかしまるとハ紀朝之　しハ紀氏之

一弥生の尽とハ　四月一日の事之

一をかたまあふひとハ　毒也
一花のおとくとハ　薬也
一菊花のつとハ　酒の事
一雲の上なる菊とハ　大内なる菊也
一菊なるうちとハ　君の事也
一名所くさ三なる流也　御瀬　佐保（野）　鳥島
一名所の三の山陰也　次戸　宇治　小野
一四季（ヨトキ）様（クサ）とハ　様子の事　四季の花草也
一山あららぎ　名ある草　牛日草　いろ草　須意

一姫み草ほうんなる事
一澄草ハ四季にあり　春ハ大根　夏ハくまさわらし　秋ハ物ぞ　冬ハ衣也
一きりはりとハ　こともの事也
一春霞なるこまでハ大内の四月一日まで様の程也
一四衣とハ四月朔日　衣かへなる事（ヲリスキノ事也）
一すし鳥とハ　恋の中たちなる女僕の事
一子そ鳥（オノ）とハ　康なる事
一大和川とハ　御瀬なる川の事

一海士か袖とハ　龍宮の事

一桜の実とハ　伊勢内宮の御事

一桜葉の実　小野か御事

一竹かね歌　伊勢斎宮の御事

一秋の衣　七夕か為の衣なるへし

一早花とハ　七夕の逢夜の花か事

一鹿か琴とハ　大内七夕ノ備の琴の事

一紅葉の橋　七夕か橋の事

一やまとの渡　うし津の川　天かわ川の事

一河内のなつくさとハ　七夕ニ大内ニ備ル菊の宴也
　まつとおかし給ふへし

一宇治か若菜とハ　桃か節句の事

一あくはか実とハ　住吉の御事

一龍の都　あしかなの実　何も住吉の異名也
　津の小野　是も住吉の御事也

一まつこの渡　呼子の鳥　夜寒の御や　松浦へ行く人
　松浦の鏡の実　鏡の異名なり　行人し

一千早の鏡　伊勢の神明也　是紀国ニ有也

一難波女とハ　いやしき女なる事也
一山家女とハ　山神なる事
一萩か戸ハ　極内也
一卯花雪　卯月花　卯花の事
一宮庭　大内庭の事　萩戸能くて見
一萩原とハ　大内庭にて植たる萩の事
一春風とハ初春也　百千鳥も一名鶯也
一様々とハ衣々なる事思ひ出しおもろ形雨ちも侍也
一初尾ハ七月一日より吹尾(風)なる也

一松も初音とハ　松の葉の初春也　緑立ヲ縁とも
　春ハ春の名あるとも春ハ雑也
一小田の浦ハ　田浦也
一若しほ浦ハ　塩浦也
一民くさハ　百姓とも云　万姓の事也
一吉野川すゝしと　あらいハせらして月あらいとハ段の
　ねさし笑なる事
一わかたふの小節　大和なりとも云也
一吉野の文都と　伊勢ともつくと也

一 ことわざとハ 六月六日素戔なりくおの岩城れ

一 須磨なる里条之 備中ニ有 松浦里 福足里 条之

二万里 備中ニ有 此酒内ニ下し 吉備の里

一 竹備 竹橋 竹なるとあり 条之 かゞ園ニ有

一 勝の清水 表ハ明し 条之 大原の里ニあり

一 宿なる門 大内の事之 表之

一 難波なる右のみとハ 難波なる天皇ハなりぬ

御の事 如くなる成る母の事

一 志賀なる家 乃下の様の事ハ

一 源氏なる風条とハ 毛城風説し 給ふ 源氏風城説ふ

一 なつもことわ条し 給ふ事之

一 難波なるとハ 葛なる事之

一 露の乾（トトリ）なるとハ いもなる葉の事

一 晁なる若さなるとハ 若松んの事之

一 源氏の山里ニ 松風城行事 行平 源氏より之

年ナ之ニ住給ふ 同松風城様く 大なる給ふ

故に 源氏ニ 書様城行く 之

一 御衆の海小舟の事ハ 条之 前大臣し 附あり

圖書

人倫之道を塞しは此海士ハ観音ふかくかし
ますす御影ハ海士ニ舟と一句く済まさる
ためく観音の教く御影うつしたまひ
候し 前海士ろとふとろろし

一 う□野郎ハ茶屋□□
一 国栖とハ 国ハやる護□事し
一 放生川とハ 八幡の□□ありし事
一 玉かつら姫とかハ 高良山のほとり也 玄良山とも
一 □□し

一 くらま寺とハ 鞍馬山ニ有 寺也 源氏かくれ大将い
まさしいとき彼さ付まて彦□□いかる寺也
一 □ハ窟とハ おそろしき所也 雲の事也
一 小塩山とハ 在原業平 東のやうにいひ所也
一 □□山 那□□ 表□□ □□□□
一 逢坂の関 何国也
一 鵜の瀬 三和山也
一 □□海士 □□ □□□□
一 小笹の中水ハ □□□の渡の□□

一 霰ふる松原ハ非名 伝ある松原の事也
一 みさけしとハ 桃の花の異名也
一 ゆんのさくらしの松の事也 人丸よみたる事也 よみ人
すわ付合也
一 児の手柏 おもて返しの事 口秘
一 菅の根 日影に伝 菖蒲の異名也
一 並ら柏ハ 海岸に並て有るを紀氏貝の事也
一 いまとりしハ 並にあるの山城に 伝ある口付
一 玉柏むかしとハ 水との貝成ろふ事也

一 玉柏とまハ 海中にあるところの事也 異ひめるゝ事也 口伝
一 このて柏とハ 女郎花の事也 口秘 一説 伝ふ口付
一 梅子ハ昔大和にあるところて 和大和梅子といへり
一 梅か枝うたふ 正月七日大内にて梅枝をさして舞事
口傳
一 卯杖とハ 正月七日大内へ山洞をあらためまいらする
伝へ杖の事也 卯の日にさゝぐる柳桃の
杖とも云ふ 男人あまく切てあわせの末まであ
十二本を 伝さてとある也

一 稲城の稲と云事　古今三箇めの内なり

一 河こ兒なる琴と云事　人丸遠江にて附武蔵種
なる所もの里に三年経候附作候て河之兒
の琴と申し来りて作りて放て来候とも
なし

一 源氏物語弟事　源氏なる所よりる事也

一 百千鳥とハ鶯の事也　但春の初なる鳥の事也
句の初よる也し

一 相坂なる関とも道ハ山越し　相坂と云ハ山越道

一 父母なきとハ月日もなくてハ不足任

一 さいなどと云ハおとの事也　こゝろさかさまへのとゝぬ
事也

一 萬代のうきくとハすへしと仰けるとハ不足任

一 康なる事也　華なる事也

一 達言なる花のゝ人と不及やう河をひとて不及

一 清なる孫と七也

一 山ごろに鏡城不付

一 住吉とハ多近城道　但住吉の神とすまひハ多近し

一 六月なかは 夏也
一 みな月のはらへハ 秋とハすへし
一 あやめくさとハ おもひたる事 庭前菖蒲との 人の袂
きつりえ人ハなつかしき事 又袂のちる袂お
志みふハいとへる事 夕飛の事なとも
一 わかなハはるかなる事
一 らんきくこそと云事 秘事也事
一 むらさきの紫と云事 杜の事
一 ま手のかゝみハ いつくもきしとせよ いふきんとは

一 まつとし
一 夜風と花かさね 夜半の月なよし
一 きさらきのつきハきえ見えとも 霜月月としかよし
一 三日月の出ハ神なし 入ハ夜分 名明の入ハ神なし
一 あさちとよと云ハ親なと文ニ人 恋の事
一 たまきぬとハ 傾城の事
一 志のふ草ハ 志のふ様にて 名の称ある草也事
一 もゝとせ 何程と云事
一 流さきのかハ人なとハ 川波との事 ...

一　まかれぬとは労作とのさくなくをしへてさかのとは
　教訓とも　いふとも云
一　風ははや吹なすにとは吹ゆくとも云事
一　こからしのとは霜の落たる事
一　もゆるとは　あ屋と云事
一　とみたとは　とも也
一　こなりとは日本のあるの事
一　たゝかくとは起れる事
一　とゝのほりては常の浪のこと也

一　とことはとは常に絶ぬる事
一　おほみきとは　おもきぬ事　御神酒のある事
一　ちりさかねは散さる花とは早くちらぬ事
　あらぬ事
一　みつるとは茶の両白と云事　表装事
一　すゝめくとは　すゝめたるといふ事
一　むほことは　石とつゝむとて松抱云也
一　あさまとは　おとしぬ事
一　さやはとは　さやと云事　さや成る事とも云

一いやハ祝ふてとハ　やハ祝ふてと云事〳〵
一うち成ると云事ハ　うれしき事と云事〳〵
一かくなりしと云ハ　さやうになると云事〳〵
一あかの為とハ　あくりょうしと云事〳〵
一うらのとハ　祝と祝ふ事〳〵
一端午とは大内節会なとの時出仕役人なる事〳〵
一させうの縁とハ　さうきやうの事ともさ比と
一花なの月ハ　三月三日の事〳〵
一うれの気るとハ　お城からのる事〳〵

一いさハ　藤の事なとの事
一このくめるとハ　こよひ祝ふ事〳〵
一為ちるさむしとハ　いちく為しと云事
一月花とハ　つやりつきれ事〳〵
一たゆせとハ　風呂の吹きえふる事
一なかく成とハ　鳥の鳴かるると云事　鳴時ゟ九云
一いや遠さるるとハ　いちく遠さるる事
一うり合なとこさ月とハ　まんやさ事
一末明のたとハ　夜明方河さとくの事

一　唐からの翅くならす風とハ　風の吹附る唐の花事

一　志らぬ火とハ　筑紫といはむとての枕言葉也

一　やくもひとハ　みのゝこと云事也

一　烏羽玉とハ　夜といふの枕言葉也

一　風さなきとハ　衣ねさくさむといふ事

一　ころの様とハ　秋暮とこける事

一　あやめ草とハ　あやなくてハ　恋人の御事也

一　免ぐりあひとハ　しらぬ事　又志らぬ事

一　志のゝめとハ　曙の事云事

一　おもかげとハ　顔などおもふと云事

一　雲井に消るとハ　なき人を云ハ　ことさんとするを云事也

一　萎れそくハ　し見る也

一　なき世の情とハ　昔との情けの事

一　ころゝ鳴とハ　鳥の声よく鳴る

一　んこけくとハ　鶯の鳴声ハんこうやとく鳴事

一　あの形くさハ　あな無事

一　おもさくてあくハ　名高となれ志とて鳴也

一　いとゝやとハ　いとゝやまと云事　一字略せる心

一 うらみとハ 海なる事
一 関守とハ 関守の事
一 あかつきとハ 暁の消失と云事 一字略
一 かくのことく宮姫なとハ 打あつさ 宮丸姫なとゝ
一 ほとゝきすの色とハ 志くしかりさる（ゝ）
一 鷹の尾山 名也
一 あさくらとハ かりする事 明衣あつく事
一 網代木とハ いさゝ古くいふハ あつる木ふ源を高くたつる
事也 又たゝよふる事也 又中ゆるゆる事

一 金置小節 名也
一 宮とし云物 林木の杭へ入るハ 名之 宮へ云へし 札杭の
一 宮としても林の 杭を植入るハ 杭之 桐ハ 四寸なり
さつくさ うちかへ かりて ひとむし 杭也
一 はつひ葉とは 人なかう人の事也
一 むまきとは 女房の身小姫を入る玉城云
一 業平名 東男 中将男 祢男 在原男 いつれも同じ
業平の名也
一 かくてなむ 紀有常 七夕 紀の有常の栖むすめ名也

一星の林　七夕まつりの事也　北野也

一たけりとハ　九月八日に松茸をいふ　孔子云

一木の葉の里　山城より也　非也

一蓬の松とは　我ものいはぬ事也し　非山歟

一袖なれ香　一悪し

一夢久しとは　蓑や笠やしなる事し

一花と稽古をする事ハ稽古なれ花の事し　稽古なれ

婦りする事し

一悪なれ山の八　濁なる事

一名なれぬ事し　風なれぬ人と取付役の名也と云

一目をなれあやまれは　名のある事と云

一名のもしかれは　水に返りたる根に役の名也と云

一蓑の旅人とハ　駒とて入る枝の事也

一名とかたいとハ　夕暮に独ありさらにいふる事

一山こえとハ　暁の事也と云し

一悪なれ山水の事　閑の事し

一立の山も思ひのこも　こうれ事し

一竹とるへくことの葉なと云　了是

一 ゐせりの事 悪し
一 こよりハ 云曜と云事
一 清水の事 せくとも 流とも おちるハ 難し
一 よるとハ 夜もあらしと云事
一 おとろ草 きよき草の無病し
一 男子石の事 両銭で嫌し
一 ろくまい砂の事 同前
一 生天とところ字 五百で嫌し
一 世之代りの事 五百で嫌し

一 虫のなくみ 今わかなくハ 升こし 可嫌
一 多之ぬ多わか字 五百可嫌
一 旅く 尾も 両銭嫌
一 おりさ日 くさ事し
一 雲の上 抄ひきし
一 宮おりの事 何とも申とも いかもし
一 福屋と申ぬく 福御屋わか事 両銭嫌候し
一 ありと云ぬく 月わかこ門で 両銭嫌
一 雨わかみ八月わかわかハ 出き 海の流し 也代 福去て

一 絵あるの事　可然候

一 岩のこと　花沢にて候

一 灯と云わく火の事　可然候

一 志のと云事ハ　無言と云事く

一 川せとゝハ　川かはすこ候云し

一 千鳥く　千鳥可然候也し

一 書とおもくいもの事　可然候

一 云みとは　まゝきみと一ツ仰せあるま事

一 身鉄しる夜の事　伊勢物語にて両所ハ来ら

若し好候と思ふ人かつひし　さま也ハこ申候
思ハ如何なる人ハ可候なるへしとやなるへしいふ

一 命のく　我か御所候始

一 様よりく　ありなるさこ可然候

一 草つむ　能おもくあらす可然るし

一 関かる事　実候やうなるも何にしてらハ様にしし
さしてらハ関なる可とみえし

一 和山かる事　いはしなくいのちし　候こゝみ和山
水こひて事しくし

一いはしつと云事　いほつと云事にくし
一こさやと云事　かりと云事〳〵
一さハと云事　あまたと云事〳〵
一そゝくとハ　ひそしみかと云事〳〵
一おほとりまハとハ　ねぐれハと云事〳〵　ねぐとまハさかさまく
さつ月おもかげまハとも云
一野馬とハ　野城ゆうつるの塔　春日のよね
一かけ物とハ　かけ人ほのかなくの事〳〵　又つまと
さらさる人〈本ノ〉事〳〵

一ゆやかのしとハ　あらわれかゝ足子事　ひわ叶とぬきとし
や事〳〵　おりあまたり事〳〵　アヤニク日　ヤ又アナイ事
一たまりもとハ　誰もと云事〳〵　右ハ亀字
一まれなめとハ　めろさこひかと云事〳〵
一やまやまくとハ　右ハしおらく〳〵
一いはハとハ　いつと云事〳〵
一かまかせんとた　なのこんむつかんと云事〳〵
一なのはくとハ　なのまなのくくと云事〳〵　なんぢ
なのくくと云事〳〵

一こゝろへハとハ　心得へハと云こと
一弱かくとハ　よはなる人（ハよはく）
一声もいきるとハ　さえかへるなと云事
一苗なくしなやとハ　苗もりともなつかしきと
云事
一こゝろハ　うつくしやさしなる事
一うつ心とハ　うつ物也と云事　又おりひく
ふる事也　声帯（うつ物也）と云も同事也
一いまれ月花とハ　庭にさき在る事也　いまれ事也

一枝もたわゝとハ　枝もたわむ也と云事
一冬こもりとハ　草木の冬にうつもれてゐる事
一かのしとハ　かわさしと云事
一あさなおきとハ　朝ことに起て見る事也　よる
この（ ）事也　あした毎の事也　夜も云
一いさ見えとハ　うわ見えと云事
一いさ月とハ　都へしゆく云事
一ほや見えもいつめとハ　物のうち又見ゆるとも云事
一ほつえとハ　梅の末の枝を云也　上の枝も同事也

一ほつえつぼみえつまは　梅か梅枝つぼみたる哉云々

一まろ人みしとは　まちまちえん会みつる哉云々

一ちぎりとは　おもふ事のかなふ事也

一ゆたへとは　たへしと云事也　一字略なるべし

一花のにほひみしとは　むれ鳥の（かれ云なりしよく知

黄鶯も出まじと云事也

一色々しとは　いろいろとつむ女らん色の事也（かき

こころえんなと淀入る読と云也

一雲のたちそとは　雲の浪ただよふ哉云

一いよみつきてんは　いよいよみつきてんと云事

一あやしに我身かなるとは　あやしくただかかる事

一つらつらくは　つらつらくと云事

一羽ねそろえすとは　秋ごとくねそろえぬ事

一夜床ねとは　よる姉とす床なる事

一うき身かねの姉かはそしとは　いよいよかさる極め

事也（尾張の夢の大く（上する哉也

一え入くたる柳とは　門より入くる柳の立る哉云々

一おもよきみくからまんとは　みちもおきつゆあまるまんと

云事也

一 八十氏人ハ 八十氏なる事

一 八十氏川とハ 宇治川を云 すなはち宇治の里人を
　八十氏人とも云

一 節りせ 度りせ 為りせ 国りせ これ同事

一 たゝやすくとハ たゝやすくと云事也
　みちくるあめあしたくよる事也

一 遠山とりとハ 遠山なとをさへぬ渡りてする也
　云し むかしより云と皆同事

一 まくずはらとハ もろ人のあつまりたる事

一 しよのあるゝひとハ 又天下をおさむ蓮の葉を以て身

一 おりひめつなとハ 星のたなはた事也

一 露の井 天の迦仏法の事也 八王の井の事

一 よきものゝかとハ よきものを以て緩くなへける
　事を云也

一 荒川とハ こまむすびたる事也 星をむすびたる種を
　いふなり

一 桜のわかきとハ さくらを以て草木をあいする事

一 ひとくのさわりとハ かならずしものこる事也

一 さくらの年とハ 去年と見えしれぬ事也

一 さくら免とハ ちりしと見えぬ事也

一 嶺こしてうくしとは ほうらくまさる事

一 いなしのハ いりかたと云事

一 まき安もと云事 風雪とすれなそむハ あそふくと候事

一 もとそむとも云に 雨れみりなそむハ 畑わかへるる事し 悪さとのまた安ハといふ旅する事也そそ

一 もろと云ても 月花にもそ安るハ ぬすもとの天のそや

一 常競雨白のわするる事 ほくし 程くの儀也

一 鴬ハまるなのあたあもし 蝶も同前

一 きこひとひろう 月しいひの事

一 うつろふとハ いろあると云事 又そすれねうつりも越え云也 云かハ句論もしあすれぬうつりも越えてうつりと云也

一 若臺 梅坪 梨坪 是ハ御し 何も春ノ名也

一 廉中のみすすかね 雪ハむらくの名すれ事也

一 十五日ハ みちる月 月まつ事

一 十六日ハ いさよひの月

一 十七日ハ たちまち月　一 十八日ハ ゐまち月

一 十九日ハ ねまち月　一 廿日より先ハ更待と云

一 [illegible]とハ 佛の事

一 おさしつゝしといふハ おさへつゝしといふ事

一 [illegible]とへハ 坂[illegible]の肩よりおろす事

一 [illegible]とハ 元(イ ヒトツ)人[illegible]の事

一 おぼろとハ やさしき事

一 [illegible]草とハ [illegible]の事

一 [illegible]ハ [illegible]やうの事

一 さゝきの名といふハ 梅木の事

一 [illegible]金とも鳥[illegible]ともいふハ [illegible]

一 月とよそ 有[illegible]にて[illegible]仕

一 [illegible]の鳥ハ 猿[illegible]の事

一 呼子鳥ハ 鶯の事

一 三[illegible] [illegible]

一 あしはらといふハ [illegible]の根[illegible]の事

ちきうりき[illegible]事まで付

一 常[illegible]灯 [illegible]

一 源しきゝは一句にも嫌候物也 去趣も不苦

一 配りの名 振舞に二句嫌

一 千里 是本振舞に二句嫌

一 葛城と賀茂城物にて これハ葛城より賀茂へ可嫌也
右ゆへのこゝきの神も賀茂なれは神祇にも成し
御事之

一 寺山と申世とは松山なれ流しも古きも依也 可遠之

一 連哥なれてふたちらひさゝまつ歌也
きゝきと聞くちこしふのまる 可残也しく

つりすれはいかくたるとの浦に舟まよく

一 松んぬと申ハ
山をはなるゝ雲かくれぬて清見 古歌之

一 たゝぬと申ハ
たゝ聞くも思ふぬ人の残きのきえ 古歌

一 三云ありしと申也
三し夜なれハ人残あくまくてたえきえ 古歌

一 たくしと申ハ
他をむし山里ハそまなれくて後 古歌

一 うきひとはやゝやかに
うき結しやうちかくきこえん
一 たゝやとゆへ
住吉之 難波江や 山里や 嵯峨
一 まよへるふるさと過去 現在 未来まで
一 過去
人こそわすれもうらみし昔見しよ
一 現在
かくてもうらみも命しらぬ是非なしよ

一 未来
秋よりも人まちわびんのちのあの所

九州大學圖書印

卅六